

ふねでしゅっぱつだ！

シップ船長とくじら

かどの えいこ さく 偕成社 913-カ

シップ船長はどんなものでもはこびます。けっしていやとはいいません。あるひ、つりのとくいな男の子に、船長はくじらをつるといいます。えさになった船長が海の中でふるえていると、水面がおおきくもりあがりました。

チムとルーシーとかいぞく

エドワード・アーディゾーニ さく なかがわ ちひろ やく 福音館書店 E-ア

チムはルーシーやゆうかなせんちょうさんたちと、いっしょにふなでします。ところがうみがあれて、みなとへもどるとちゆうにそうなんしたいかだをみつけます。いかだにのっていたぜんいんをたすけることはできましたが、かれらはひどくにんそうのわるいれんちゆうでした。

ソフィー・スコットの南極日記

アリソン・レスター 作 斎藤 倫子 訳 小峰書店 402-レ

ソフィーのパパは南極の基地まで、人や荷物をはこぶ船の船長です。ソフィーはパパの船に乗って南極大陸に旅行することになりました。南極ってどんなところだろう、なにがあるのかな。船がうごきだすとソフィーはちょっぴりどきどき、すごーくわくわくしました。

水の精とふしぎなカヌー

岡田 淳 作 理論社 913-オ

トワイエさんは、大きな木の上にある屋根裏部屋で暮らしていました。けれど、足にけがをしたので、すこしのあいだガラスのビンの家ですごすことになりました。スキッパーは、トワイエさんのかわりに屋根裏部屋の本やノートをとりについてあげますが、だれもいないはずの部屋に、だれかいるようなのです。

船乗りサッカレーの怖い話

クリス・プリーストリー 著 三辺 律子 訳 理論社 933-プ

物心がついたときから、キャシーとぼくは不気味な物語が異常なほど好きだった。ぼくの家は岬の古い宿屋で、船乗りたちの話をいつもきいていたせいだろう。ある日、嵐から避難してきた船乗りのサッカレーは「嵐がおさまるまでのあいだ、旅できた話を二つ三つきかせるのはどうだい？」と言った。キャシーが、ぜひきかせてくださいと言うと、サッカレーは話しはじめた。

舟をつくる

関野 吉晴 監修・写真 前田 次郎 文 徳間書店 552ーフ

ぼくたちは日本人の祖先が日本列島にやってきたルートの一つ、東南アジアから黒潮に乗ってたどり着いた海洋ルートを旅するための舟をつくることにしました。その舟がどんな舟だったかはわかりませんが「自然の中から自分たちで素材を採ってきて、機械を使わずに自分たちがつくった道具でつくる」というルールでやってみることにしました。

二年間の休暇（上・下）

ジュール・ヴェルヌ 作 私市 保彦 訳 岩波書店 953ーヴ

1860年3月、一隻の小型船がニュージーランド沖に流されていた。乗組員は十五人の少年のみ。8歳から14歳で、チェアマン寄宿学校で共に学ぶ少年たちであった。船は太平洋のどことも見えない陸か島に流れついた。年長者のブリアンとゴードンは森へ入っていき、見晴らしのいい断崖に上って、この土地は島なのか見極めなければならないと考えた。